

第 6 学 年 音 楽 科

教科目標 創造的に音楽にかかわり、音楽活動への意欲をたかめ、音楽経験を生かして生活を明るく潤いのあるものにする態度と習慣を育てます。 音楽の楽しさを味わって聴き、様々な音楽に親しむようにします。
--

月	単元・題材名	時数	学習活動
4	ふし重なり合いを味わおう ・歌の重なり合いを味わいな が「思ひ出の月夜」	3	・声が重なり合う響きを感じ取って、二部合唱をする。 ・曲全体のまとまりや、曲のイメージに合った「速さ」を工夫して歌う。
5	・楽器の合奏を味わいな が「ラッパの音」	4	・情景を思い浮かべて、表情豊かに部分二部合唱をする。 ・グループごとに演奏の仕方を工夫する。 ・曲全体のまとまりや音の響きを生かした演奏をする。 ・それぞれの表現の仕方に気を付けて友達の演奏を聴く。
6	世界を ・世界の音楽を ・音楽のふんわりとした「音楽」を感じながら 演奏「アライヴ」	3 4	・旋律の特徴や響きの違いを感じ取りながら、世界の国々の音楽を聴く。 ・斉唱と合唱を組み合わせるなどの歌い方を工夫したり、言語で歌ったりする。
7	いろいろな ・いろいろな曲を ・いろいろな曲を ・いろいろな曲を	1	・楽器の音やその組み合わせによる響きを感じ取りながら聴き比べる。
9	・歌の味を ・楽器の音を ・楽器の音を	2 4	・指導用CDを聴いたり歌詞を読んだりして、想像豊かに二部合唱する。 ・副次的な旋律を楽器で重ねて、美しく響く演奏を工夫する。 ・互いの音を聴き合い、全体の響きに気を付けて表情豊かな合奏を工夫する。
10	重なり合う音の美しさを味わおう ・音が重なり合う響きの美しさを味わおう。 ・合奏の美しさを味わおう。	3 2	・指導用CDを聴き、歌声や楽器の音の重なり合いの美しさに気づく。 ・声や音が重なり合う響きの美しさを味わおう。 ・大人の声の特徴や美しさを味わおう。
11	・和音の響きを味わおう。 ・和音の響きを味わおう。 ・和音の響きを味わおう。	3	・声の響き合いを感じ取りながら合唱表現を工夫する。
12	・曲のイメージや情景に合う楽器を選んで演奏する。 ・楽器の音色や響きを互いに聴き合って合奏する。 ・自分の声に合うパートを選んで、曲想を生かしながら二部合唱をする。	4 3	・オーケストラの響きを味わいながら音楽を聴く。 ・曲のイメージや情景に合う楽器を選んで演奏する。 ・楽器の音色や響きを互いに聴き合って合奏する。 ・自分の声に合うパートを選んで、曲想を生かしながら二部合唱をする。
1	日本楽器の美しさを味わおう ・日本の伝統的な楽器について知る。 ・日本の音楽の旋律の感じや響きを味わいながら聴く。 ・箏や尺八の音色を味わいながら想像豊かに聴く。 ・雅楽の雰囲気を生かした演奏を工夫する。	5	・日本の伝統的な楽器について知る。 ・日本の音楽の旋律の感じや響きを味わいながら聴く。 ・箏や尺八の音色を味わいながら想像豊かに聴く。 ・雅楽の雰囲気を生かした演奏を工夫する。
2	心を大切にし ・短調の旋律の特徴を感じ取って、階名唱したりリコーダーなどで演奏したりする。	2	・短調の旋律の特徴を感じ取って、階名唱したりリコーダーなどで演奏したりする。
3	・歌詞の表す気持ちを大切に ・歌詞の表す気持ちを大切に ・歌詞の表す気持ちを大切に	3	・6年間の思い出を詩にして、その詩に合うリズムを考えたり言葉の抑揚を調べたりしながら、工夫して曲をつくる。 ・歌い出しや休符、息つぎの場所などに気を付けて、互いの声部を聴き合いながら合唱する。 ・歌詞の内容を味わいながら、心をこめた歌い方を工夫する。
授業時数の合計			50時間

音楽科の評価は	評価基準	評価方法
観心・意欲・態度	・創造的に音楽にかかわり、音楽活動への意欲を高めるとともに、生活を明るく潤いのあるものにするかという観点から見ます。	・学習態度 ・演奏内容、演奏の様子
音楽的な感受や表現の工夫	・音楽のよさや美しさを感じ取るとともに、楽曲全体の構成を理解したりして、表現や鑑賞の仕方を工夫しているかどうかという観点から見ます。	・歌唱内容、歌唱の様子
表現の技能	・音楽を聴いたり楽譜を見たりして演奏するとともに、豊かな響きのある自らでつくる曲を聴いたりして、音色の特徴を生かして楽器を演奏したり、音楽をつくるかという観点から見ます。	・音楽ワーク ・テストなど
鑑賞の能力	・楽曲の構成に気を付けながら曲想を全体的に味わって聴いているかという観点から見ます。	・総合的に評価します。

